

リハビリテーション医療の現状について

リハ施設の整備状況

リハ施設基準の届出医療機関の状況

- ・二次救急医療機関(253機関)でリハ施設基準届出医療機関の割合は約83%(210機関)
- ・リハ施設基準届出医療機関(671機関)のうち、二次救急又は回復期リハ病棟がある医療機関以外の医療機関の割合は約63%(427機関)で、うち無床診療所が261施設

出典:平成22年度リハビリテーション医療実施医療機関名簿、関東信越厚生局東京事

回復期リハビリ病棟の整備状況

		H20.4	H21.4	H22.4	H23.4	H24.4
都	病床数	2,744	3,422	3,908	4,116	4,498
	増加率	—	24.7%	14.2%	5.3%	9.3%
	10万人比	21.4	26.5	30.1	31.3	35.5
全国	病床数	47,267	53,104	57,287	60,273	62,276
	増加率	—	12.3%	7.9%	5.2%	3.3%
	10万人比	37	41.0	45.0	47.0	48.9

出典:都に係る数値は、医療政策課調べ(社会保険事務局又は関東信越厚生局に照会)
全国に係る数値は、全国回復期リハ病棟連絡協議会調べ

回復期リハビリ病棟の病床利用状況

	利用率	全国			東京都		
		有効病床数(棟)	割合(%)	平均利用率(%)	有効病床数(棟)	割合(%)	平均利用率(%)
一般病床	80%未満	71	22.3	87.4	2	8.0	90.76
	90%未満	79	24.8		5	20.0	
	95%未満	47	14.7		4	16.0	
	100%未満	77	24.1		9	36.0	
	100%以上	45	14.1		5	20.0	
療養病床	80%未満	85	16.4	89.4	3	9.4	91.93
	90%未満	123	23.7		8	25.0	
	95%未満	136	26.2		9	28.1	
	100%未満	104	20.0		6	18.8	
	100%以上	71	13.7		6	18.8	

出典:全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会調べ

回復期リハビリ病棟増床の内訳(H21.4からH24.4の増床分)

区分	病床数	医療機関数
新築・建替※	569	8
増床	16	1
一般又は療養から転換	656	18
減床・廃止	△165	8
	1,076	35

※新築・建替のうち回復期リハ病棟施設整備補助:1医療機関(30床)

出典:関東信越厚生局東京事務所に照会

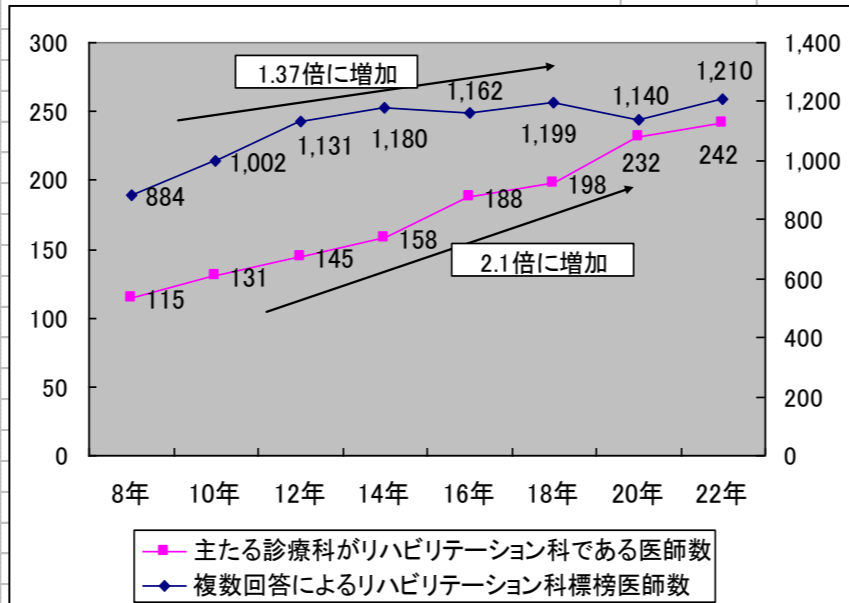
一般診療所でのリハビリテーション医療実施状況

	平成18年度	平成23年度
病院	59.3%	63.6%
診療所	6.1%	3.8%

平成23年度東京都医療機能実態調査

リハ従事者の充足状況

都内のリハビリテーション科に係る医師数の推移



出典:医師・歯科医師・薬剤師調査(厚生労働省)
・医療施設従事医師数、病院・診療所・診療科名(主たる)・従業地による都道府県
・医療施設従事医師数、病院・診療所・診療科名(複数回答)・従業地による都道府県

リハビリテーション専門医数の状況

・認定している日本リハビリテーション医学会では、4,000人必要と試算

	都内	全国	割合
リハビリテーション専門医数	242	1,851	13.1%

出典:日本リハビリテーション医学会ホームページ

全国リハビリ科医師の現員、必要医師数の状況

・平成22年度の厚生労働省の必要医師数実態調査の診療科別では、リハビリ科の求人倍率1.29倍は、救急科の1.28倍を超えて、全診療科の中で最も人員不足

	現員医師数 A				必要医師数 B				倍率 (A+B)/A
	計	正規雇用	短時間正規雇用	非常勤	計	正規雇用	短時間正規雇用	非常勤	
リハビリ科	1,750.10	1,489	55	206.1	499.2	462	16	21.2	1.29
全科合計	167,063.90	132,937	3,532	30,594.90	24,033.40	21,588	817	1,628.40	1.14

リハビリ専門職国家試験合格者の推移

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
理学療法士	4,843	6,002	6,559	6,924	9,112	7,736	9,850
作業療法士	3,442	4,185	4,400	4,257	5,317	4,138	4,637
言語聴覚士	1,012	1,389	1,788	1,344	1,619	1,645	1,410
合計	9,297	11,576	12,747	12,525	16,048	13,519	15,897

出典:厚生労働省合格者発表数より

リハ患者の行き先の状況

急性期病院における回復期リハビリテーション病院への患者転院および回復期リハビリテーション病院における患者受け入れについてのアンケート調査結果(日本リハビリテーション医学会:2009年1~3月)

急性期病院へのアンケート結果

回復期リハ適用患者の急性期病院から回復期リハ病棟への転院状況		
実際に入院できた患者	2,901人	77.6%
転院できなかった患者	835人	22.4%

回復期リハ病棟へ転院できなかった理由(n=835人)

医学的管理(酸素投与、高価な内服薬、内科疾患、リスク等)が困難であるため	35%
疾患の治療又は併存疾患・合併症の治療のために2カ月以内に転院できないため	29%
自宅退院の目的が立っていないなど社会的理由があるため	14%
頸髄損傷・類似状態を受け入れ可能な回復期リハ病棟のベッド数が極めて少ないため	4%
その他の理由による※	18%
計	100%

※その他の理由には、回復期リハ病棟のベッド待ち、空床なし、居住地域に回復期リハ病棟無しのほか、認知症、家族の希望、独居・保証人不在、入院診療料の問題などがあつた。

回復期リハ病院へのアンケート結果

回復期リハ適用患者の回復期リハ病棟を有する病院の受け入れ状況		
実際に入院できた患者	9,396人	76.0%
転院できなかった患者	2,972人	24.0%

回復期リハ病棟に入院できなかった理由(n=2,972人)

医学的管理が困難なので	22%
入院から転院までが2カ月を超えていたので	18%
満床であったため	16%
機能回復が困難と判断したので	13%
自宅復帰などゴール設定に難渋しそうなので	8%
介護・看護度が大きく手間がかかりそうなので	5%
その他	18%
計	100%

脳卒中医療連携に関する実態調査 調査結果(速報値)(東京都:2012年6月15日~7月2日)

脳卒中急性期又は二次救急の患者の退院先

